



伝統の技術を活かした新ブランドを海外へ発信

「りん」作りの技術から生まれた「すずがみ」

明治 42 年創業のシマタニ昇龍工房は、伝統の鍛金技術を活かし、僧侶が鳴らす「りん」を専門に製造を行っている。「りん」は金槌で真鍮の板を叩いて作られるもので、この技術を応用して新ブランド「すずがみ」を立ち上げた。

島谷社長は「もともと柔らかい素材である錫に圧延という加工を施したところ、意外に丈夫なことがわかりました。これはもっと薄くしてもいけるなと思いました。」と語る。「すずがみ」は、通常の錫の板と違い何回も圧延を繰り返し、熟練の職人がリズミカルに「金槌で叩く」ことにより、**厚さ 0.7mm の錫の紙**を作り出すことに成功。まさに伝統の職人技から誕生した商品と言える。なおかつ曲げ延ばしによる劣化が少ない付加価値もあった。

「すずがみ」の持つ、**折り紙のように折ったり曲げたり出来る**特性が「自分で形づくる楽しみ」として幅広い層に受け入れられ、全国の百貨店などで販売。「曲がる器」として飲食店に導入されるほか、ギフト商品としても人気を博している。

しかし、販売を通じて意外な情報が島谷社長のもとに届いた。外国人客が「すずがみ」を多く購入していると言う。

「外国の方にもすずがみの良さが理解されていると実感しました。海外でも販売したいと思っていたところに、欧州で販売したいという方にお会いすることができたんです。」**今年 8 月には欧州向けのホームページを公開**。「まだ始めたばかりで手ごたえはこれから。」と島谷社長。「すぐに海外戦略、販路拡大というわけではありません。ただ、確かな仕事を続けることを大切にしていきたい。当面は国内販売を中心に活動していきますが、いずれ、いい機会に巡り合えたら、展示会等に出展したいと考えています。」

【お問合せ先】

 **syouryu** シマタニ昇龍工房
TEL:0766-22-4727 <http://www.syouryu.com/>

